

論 題 気候によって異なる住まいを学ぶ  
～小学校5年生社会科における住教育プログラムの提案～

学籍番号 20818028

指導者 薬袋 奈美子 専任講師

氏名 平石 聡美

## 1、研究の背景と目的

「住教育」とは住生活の素地を作り、能力を養う等の住生活能力をつける教育全般を指す。

本研究は小学校5年生の社会科において住教育の授業を行う。社会科は産業や暮らしを扱い、住教育と関連が深いにも関わらず、住居領域の教育の場として活用されていない。そのため本研究では社会科の教科書を活用した授業提案を行う。

## 2、授業プログラムの概要

今回は新しい社会5上（東京書籍）の1-3「国土の気候の特色と人々の暮らし」で授業を行う。学習指導要領において単元目標が「我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。」となっており、ねらいとして「自然環境としての国土の様子や特色を、広い視野から理解できるようにする。」と明記されている。そのため授業のめあてを「地域の気候に合わせた家の工夫を知ろう」とした。

竹富島と白川郷の2グループに分かれ、資料を読み取り、担当する地域の家を紹介し合う。その方法として手紙による質問と返信を用いる。もらう相手を意識して手紙を書くことによって相手を気遣う気持ちを養うねらいがある。「使いやすい教材の開発」として、教科書をもとに授業を構成する事でカリキュラム内に組み込みやすくした。

表1 授業の流れ

学習内容	作業形態	生徒の学習活動
15分 質問をする際にどんな点に着目すべきかを学ぶ	全体	アイヌのチセの写真を見ながら、チセのすてきな所を発表し、質問に変換する
15分 ペア班に向けて手紙を書く	個人→グループ	白川郷と竹富島の2グループに分かれる。先ほどのように教科書の写真と文章を見て意見を出して質問に変換し、家の工夫について教えてもらうための手紙を書く
10分 お手紙の返事を書く	グループ	書いた手紙を交換し、ペア班からの手紙に対して追加資料を見ながら返事を書く
5分 発表	全体	書いた手紙を発表 ふりかえりシートに記入

表2 授業の評価方法

	評価の視点	評価方法
社会科	気候に合った暮らしの工夫を知る事が出来たか	特徴的な工夫の役割を理解して表現出来る
住教育	気候と建物の工夫の関連に気付くことができたか	家の構造や間取りと気候を関連付けて表現出来る
シティズンシップ	相手の立場に立って物事を考える事が出来たか	相手を意識しながら手紙を書くことが出来る
	その家の人になりきることができたか	資料からは分からない事をワークシート②の想像したことに記入出来る

また「現場への情報提供」として、伝えたいポイントやセリフをまとめた指導案を作成した。

## 3、社会科教育・住教育として

### 3-1 気候と家の関連付け

社会科教育と住教育それぞれ設定した目標を一人ひとりが達成できたか確かめるために、振り返りシートに記述された内容を分析する。

振り返りシートの質問①「相手の家のすごい！工夫しているな！と思ったこと」（以下質問①）と質問②「自分の家にも取り入れたい工夫」（以下質問②）の回答から、家に関連する回答を選んだ。それを更に、i) 家の構造や間取りと気候を関連付けて表現出来た回答、ii) 家の構造や間取りと気候を関連付けて表現出来なかった回答の2種類に分類した（表3）。

表3 振り返りシート:気候と家の関連付けを表現出来たか

質問	家に関連する回答		家以外に関する回答※
	i) 表現出来た回答	ii) 表現出来なかった回答	
① すごいと思った工夫	12人 白川郷【雪や雨】7人 竹富島【台風・雨・風】5人	6人	3人
② 取り入れたい工夫	8人 白川郷【冷たい空気】1人 竹富島【台風・雨・風】7人	10人	3人

※文化に関する意見をあげた回答を指す

i) の回答では屋根などの特徴的な工夫の他に、なぜすごいと思ったか、なぜ自分の家にも取り入れたいのかという理由を書く事が出来た。質問①では白川郷の「雪」、質問②では竹富島の「台風」と関連付けた回答が多い。住教育としての目標を達成できた回答であり、21人中質問①で12人、質問②で8人の児童が家と気候を関連付けて表現出来た。

ii) の回答では、屋根などの特徴的な工夫をあげただけの児童や、誤った理由を書いた児童がいた。「屋根が大きいと大量の雪をおとすためなのですすごいと思った。」という回答では、大量の雪を落とすための工夫は「屋根が大きい」ではなく「屋根の傾きが急」な事である。屋根の傾きが急になった結果、屋根が大きくなったという事を理解できていない事が分かる。

また家以外に関する回答では、竹富島のシーサーについての回答があった。これらの回答には気候に関する言葉はなく、授業では気候と家の構造や間取りに関する工夫を学ぶねらいがあるため、住教育としての目標は達成していない。しかしどの回答もシーサーの役割を理解し、理由を書く事が出来た。

結果、社会科としての目標を達成できたのは、「i) 家の構造や間取りと気候を関連付けて表現出来た回答」と「家以外に関する回答」であり、21人中質問①で15人、質問②で11人の児童が特徴的な工夫の役割を理解して表現出来た。

### 3-2 建物への関心

振り返りシートの質問④「今日の感想」（以下質問④）では、「家の工夫を探す所が楽しかった。」「楽しく家の事を勉強できてよかった。」など、ほとんどの児童が今回の授業に関して肯定的な意見であった。そのため子供たちの興味をかきたてる授業プログラムであったと言える。

## 4、シティズンシップ教育として

### 4-1 グループでの話し合いによる効果

グループワークで相手に聞く質問を考える際にまず自分の意見を書き、その後グループで話し合いを行ってみんなの意見を書く形をとった。自分の意見ではあまり記入出来なかった児童が、話し合いでは積極的に発言する様子が見られるなど、家について様々な質問を考えることが出来た。また個人の意見では見た目に関する意見が多くあがったが(図1)、グループでの話し合いでは「雪がたくさん積もった時どうするか」「駐車場はどこか」など、地域の人々の暮らしに着目した意見を出せた(図2)。

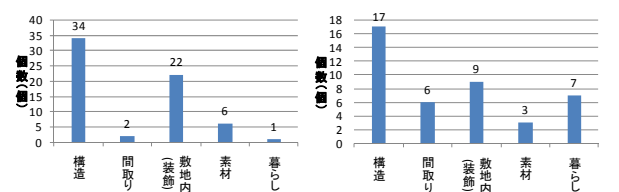


図1 白川郷：自分の意見 図2 白川郷：みんなの意見

### 4-2 相手を気遣う気持ち

振り返りシートの質問③「お手紙を書く時に気を付けた事」ではほとんどの児童が相手の事を気遣う意見をあげている(図3)。また話し合いの中で相手が分からないであろう質問を避ける発言が出ており、「相手の立場から物事を考える」事が出来ている。

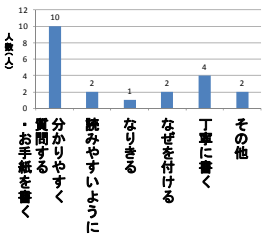


図3 振り返りシート：質問③で出た意見

「なりきり」に関しては、6班中2班が資料からは分からないことをワークシート2の想像したことに記入出来ていた。しかし振り返りシートの質問③(図3)で言及した児童は少なく、あまり意識されていなかった事が分かる。今後なりきりの説明の工夫が必要である。

表4 想像した事に記入できた回答とその質問

班	質問	想像した事
2	入口はどこにあるんですか	正面から見て左側にある。
	なぜ家と家の間が離れているんですか	雪を落としたら隣の家の人に迷惑。
5	どうして玄関がないのか	風通しを良くするため。

## 5、秘密の封筒の資料による効果

手紙の返事を書く際に「秘密の封筒」と称した追加資料(表5)を提供し、資料のどこを見て質問に回答したかページごとに分類した(図4)。その結果、回答した質問個数はP2が最も多く、P1、P6はなしという結果になった。P5・P6にはハード面に関する情報を入れたが、ほとんど活用されていなかった。これは児童が考えた質問がP2~P4の情報のみで回答できる質問だったからだ。しかしP2~P4に関しては資料から必要な情報を探し、質問に合わせて情報を取捨選択して回答する事が出来た。

表5 追加資料のページ構成

	P1	P2	P3	P4	P5	P6
白川郷	①白川郷でのくらし	②家の各部分の説明 1、屋根	2、いろり 3、家の使い方	③寒さをしのぐくふう	平面図	立面図 断面図
竹富島	①竹富島でのくらし	②家の各部分の説明 1、石垣・防風林 2、ヒンヤン	3、家の造り 4、屋根	5、アマハジ ③高い気温や湿度をしのぐくふう	平面図	立面図 断面図

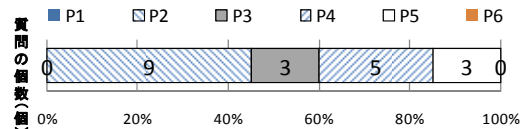


図4 ワークシート②の回答の情報ソース

## 6、おわりに

今回の検証により、家庭科だけでなく他教科でも教科書にそった住教育を行える事が確かめられた。今後は、振り返りシートなどのワークシートの改善と指導者がより使いやすい教材提供の仕方が課題である。学校教育の中で住教育を行える時間は少ない。家庭科だけに住教育を任せるとはならず各教科に少しずつ取り入れる事によって、より住教育の充実を図る事が出来ると考える。そのため今後各教科の教科書にそった住教育の授業・教材の開発が望まれる。

<参考文献>

速水多佳子・関川千尋「学校教育における住居領域の教育システムの有効性について」(日本家政学会誌)2000年  
正岡さち・高嶋智恵「小学生の住居意識と住教育に対する意識」(島根大学教育学部紀要)2010年